

副題 ～児童が主体的に活動するための導入の工夫～

そこで、児童が「自分のイメージ」をふくらませ、主体的に活動するための導入とするために、どのようにICTを活用していくことが望ましいか、その方法を追求していきたい。

- ・児童の主体的な活動をイメージし、題材による導入や振り返りの行い方を精選する。
- ・身に付けるべき知識・技能を導入の段階で提示し、学習の見通しを明確にする授業展開の工夫。

② 研究授業にて

- ・ICTの活用、導入の工夫について協議を行い、成果と課題を明確にしていく。
- ・授業を通して、児童が何を身に付け、今後の学習活動にどう生かせるかを検討する。

3枚の絵から、お気に入りの1枚を選び、どこが気に入ったか、他と比べてどこがよかったかを伝え合う。友達の考えを聞くことで、感じ方、考え方を広げる。

- ICT を通しての交流だけでなく、直接伝え合う活動も行い、言語活動を充実させることも大切であることに気づいた。
- 導入の時間がやや長かった。さらに短時間で、かつ児童の意欲を高めるための ICT の活用を引き続き検討、研究する必要がある。
- 鑑賞の視点を示すことにより、児童の活動が円滑に進み、自分の見方や感じ方を広げて書くことが苦手な児童でも何らかの考えを書くことができるようになった。
- ICT を児童の活動や教師の説明の際に、いかに補助的に、効率的に活用するべきか、考えていく必要性を感じた。

ゴルゴンダ ルネ・マグリット (1898~1967/ベルギー)